

新年のごあいさつ

代表取締役社長
長瀧 好教



変わることへの興奮と喜びを、お客さまとともに

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年の出来事を振り返りますと、政治・経済では、東京都知事選挙、18歳選挙権の施行、アメリカ大統領選挙、電力の完全自由化、スポーツではリオ・オリンピック/パラリンピック、イチロー選手の大リーグ記録の更新、ゴルフでは松山選手・石川選手の大活躍、他にもSMAPの解散など、わくわく、ドキドキするトピックスがたくさんありました。



弊社もわくわく、ドキドキするような「新たなチャレンジ」の一年でした。一昨年より手がけてまいりました「IoT+”俺のクラウド”を活用した、“お客さま現場の安全・安心・健康ソリューション：点検システム、体調管理システム、HealthPartner2020”の製品化、各種イベントやフェアへの出展、あるいは一昨年に資本参加しました北九州パワーの創業開始、金融プロジェクトのサービスイン、そして病院関連の大型プロジェクトの本格化などです。

その中で起こる困難な課題の一つ一つをお客さまと乗り越えた一年間は、私どもの創立の原点である“お客さまとともに新しい仕事/課題解決に熱く挑戦する、真のプロフェッショナル・チームとなる”を実践するものであったと強く感じました。

お陰様をもちまして、本年度で創立50周年ならびにJBCグループ参加10周年を迎えることができました。“ありがとうございます”これからも、常に創立の原点を念頭において、挑戦する風土の定着化を図り、付加価値の高いサービスの提供を追及し、お客さまの成功と地域の皆さまの生活活性化へ貢献できるように進んでまいります。

本年度で就任しまして4年目となります。また、私事ですが5回目の年男を北九州で迎えることができました。ここを新たなスタートとして、変わることへの興奮と喜びを感じながら、お客さまや地域の皆さまにとりまして、よりいっそう頼りがいのあるチームに成長していくことをお約束いたします。今後とも変わらないご愛顧とご支援を賜りますようお願い申し上げます。





ひとりひとりが「主役」として

取締役常務執行役員
松岡 信行 (営業統括担当)

弊社は今年2月に創立50周年を迎えます。

この節目を迎えることができ、お客さまを初め、関係者の皆さまへの感謝の思いでいっぱいです。私が入社した36年前はソフトウェア開発事業をスタートしたばかりで、その頃はパンチカードでプログラムを作成していました。その後、ICTの目覚ましい進化とともに開発環境は変わり、弊社のビジネスも業容を変えて乗り越えてきました。



そして今、さらなる大きな変化として、IoT、ビッグデータ、AIなど、ICTがこれまで以上のスピードで進化しています。弊社がこの進化に対応し、お客さまの成功に貢献し続けていくには、「対応のスピード」と「対応の柔軟さ」が不可欠であり、その中でも個人の資質がもっとも重要だと考えます。私が今後の50年につなげることは、新しいことや難しいことにチャレンジして成長する「機会」を提供し、「期待」を明確にして、社員一人ひとりが「主役」として活躍できる環境づくりであると考えます。

このIT業界で50年継続できたのは、一途に「お客さまに寄り添うこと」を心がけてきた成果だと思っています。今後も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



新しいステージに向けて

執行役員
野田 清文 (SI&サービス担当)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

お陰様で弊社は創立50周年を迎えます。生産性向上が時代の要請であった中、お客さまの業務効率を最優先に考えて、全社システムをフルスクラッチさせていただいた仕事が思い出されます。



大切にしてきたのは「お客さまとの関わり」と「ソルネットらしさ」。

時代は変わり、ITの進展はデジタル技術を前提に既存ビジネスや組織のあり方、仕事の進め方、あるいは生活のあり方を全面的に見直し、新しい常識を生み出す時代となってきています。改めて感じるのは、ビジネス課題、現場、お客さま、その先の消費者への理解がこれまで以上に重要なこと。機械が人の代わりに果たしてくれる範囲が広がる一方で、人がもつ感性・協調性・創造性を発揮してお客さまニーズを把握し、必要なテクノロジーを繋げるアンテナを持ち、全体をコラボレーションするスキルが大事と考えています。

本年は、次のステージへの第一歩となります。まずは、これまで大切にしてきた「お客さまとの関わり」をさらに拡大させ、多くのお客さまとお会いして、“未来のカタチ”についてお話しすることから始めたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



“光もの”をサービス化

執行役員
大岡 肇子 (BIZ企画推進担当)

あけましておめでとうございます。創立50周年を迎えるにあたり、若手時代を振り返りますと、お客さま先に常駐して、お客さまにSEとして一から育成していただいた、余裕のある恵まれた時代だったと改めて思います。おかげさまで弊社は、お客さまのご要望を実現する高品質なシステム構築の実績を積み重ねることができました。



しかし現在、IT技術変革の波もビジネスライフサイクルも短期化し、全てにスピードが求められています。IoT、モバイル、クラウドなどITはますます身近なものとなり、デジタルで人とマシンがつながり、新しいサービスが生まれています。

私はこれからの50年に向けて、お客さまのシステムを「作る」のではなく、お客さまに「使っていただく」サービス(ソリューション)をご提供する会社にするために、先頭に立つて取組んでまいります。

IoTを活用した「健康」「安全安心」をはじめ、ソルネットの“光もの”をサービス化し、お客さまにすぐにご活用いただけるように、お客さまとともに成長していけるサービスをご提供、ご提案してまいります。どうぞご期待ください。



感謝し、恩返しを

理事 事業部長
近藤 俊次 (産業SOL事業部)

旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社のこれまでの50年は、お客さまとの信頼関係を積み重ねてきた歴史だと言えます。私の社会生活30年を振り返りますと、北九州市のお客さまを中心に、関東や中部、東南アジア拠点のお客さままで、幅広くお付き合いの機会を与えていただき、さまざまなビジネスの現場を知ることができました。ITトレンドの観点で振り返りましても、大型メインフレームからPC系へのダウンサイジング、ERPによる全体最適化、WEBベースへのシフト、グローバル対応等々、転換期にお客さまと一緒にチャレンジできたことは私の大きな財産です。



これからの50年に向けては、これまでのことに感謝し、「恩返し」の気持ちで、次世代にバトンをつないでまいります。今まさに第四次産業革命の時代、経営の武器へと進化したITを活用していただくため、スキルを有した「信頼のおける人財」の育成にも力を入れます。お客さまや社会へ貢献することを喜びとした「信頼のおける会社」であり続けること、それが私の恩返しです。本年も変わらぬご厚誼のほどよろしくお願いいたします。



選手に元気を届けたい！

第13回 北九州チャンピオンズカップ
国際車椅子バスケットボール大会
2016/11/18 ▶ 11/20

J Bグループでは、さまざまな社会貢献活動に取組んでいます、その中で2014年度より

“関東車椅子バスケットボール連盟”への協賛をはじめ、車椅子バスケットボールへのボランティア活動を実施しています。弊社もJ B C C九州支店とともに「J Bグループ」として、昨年に引き続き、ここ北九州で開催される“北九州チャンピオンズカップ”に参加いたしました。

この取組みは、“頑張っている選手に元気を届ける活動はできないか？”と、社内で検討していた折に、大会事務局の方から「決勝戦のある最終日が日曜日ということもあり、若干観客が集まりづらい」とお聞きし、“日本だけでなく、海外の方も元気よく応援しよう！”ということから始めたものです。

昨年の参加者は110名、今年は、この取組みにご理解頂いたお客さまも初めて参加してくださり、社員・家族、パートナーさまあわせて、総勢101名が集まりました。

全員を2チームに分けて、両サイドに座り、自サイド側のチームを応援します。若手社員がリーダーとなって、「オーフェンス」「ディーフェンス」という掛け声をかけ、全員で“応援シューターバレーン”を使って応援します。車椅子同士の激しいアタリや音を目の前にして、みんなすごく興奮しました。

日本チームの試合となると、他国側担当のチームは自サイドの応援に徹しているつもりでも、日本チームが不利な状況にはハラハラしたりもしましたが、自サイドのチームをしっかり応援しました。今年は、日本チームが優勝を果たし、さらに盛り上がったイベントになりました。

今後も車椅子バスケットボールがますます普及していくよう、支援していきたいと思えます。

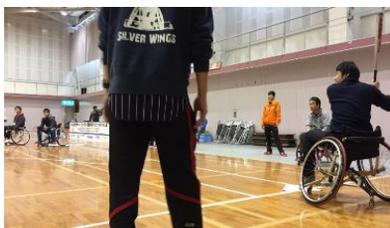
(事業管理)



赤と青のシューターバレーンで応援



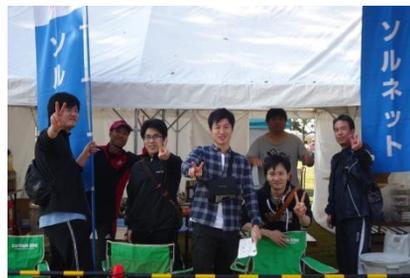
車椅子の体験も含め、参加に





青空のもと、タスキをつなぐ

好天に恵まれた11月5日(土)、6日(日)の2日間今年も、社員とご家族、パートナーさま、そしてお客さまにもご参加いただき、総勢162名でチーム「ソルネット」を結成し、地元の「まつり企業祭八幡2016」のメインイベントである「第12回八幡東田ウルトラ25時間駅伝大会」に参加しました。



疲れた体を癒す快適な空間を準備してくれました

コースとなるJRスペースワールド駅前の八幡東田大通り公園は、色とりどりの紅葉に彩られ、お祭り気分も一層盛り上がります。



例年通り、社長の長濱が11時のスタートを切ると、その後は部門ごとに持ち時間を走りながら、たすきを25時間つないでいきます。

普段運動していない社員もこの日ばかりはランナーとなって、緩やかな坂道に息を切らしつつ、仲間や家族の声援に力をもらってコース(1周約832メートル)を走りきります。



また、部門ごとに趣向を凝らしたバーベキューや差し入れが準備されていて、走った後は青空の下、おいしいビールとおいしい食べ物でおなか一杯、みんないい笑顔になっていました。



当日発表される競技エリア内で、決められた時間内に収集したゴミの量と質を競う、チーム対抗ゴミ拾い大会「スポGOMI」に藤本さんと久保田さんが挑戦しました!





自治体業務システムの安定稼働を支えます

皆さま、こんにちは。私達、公共ソリューショングループは、自治体のシステム業務に対するご提案など、システムを通して住民の方の暮らしを支える大事な仕事に携わっています。普段は、それぞれの執務場所で異なる業務を担当していますが、情報交換や勉強会を積極的に行うなどチーム力を発揮し、自治体業務システムのエキスパートを目標に頑張っています。

(公共SOLグループ 林 照久)

◆番号制度（マイナンバー）導入支援チーム◆



地方自治体の「社会保障・税番号（マイナンバー）制度」システム導入支援業務に携わっています。マルチベンダー環境の中で、業務課さま・多数のベンダーさまとのコミュニケーション・連携を確実にとることで「品質確保！」を目指しています。

◆システム運用改善チーム◆

自治体のシステムユーザー（業務課）さまと、システム運用に係る業務改善に取り組んでいます。自治体さまとシステムベンダーさまの間でのコンサルティング業務には交渉・調整等の難しさもありますが、長い自治体経験とSEスキルを活かして、「改善効果の見える化」を目標に活動しています。



◆国民健康保険システム保守チーム◆



私たち社員も退職後にお世話になる「国民健康保険システム」の運用保守を担当しています。医療制度改革など法改正も多いため、改正内容の理解を通してスキルアップを図り、メンバーで力を合わせて柔軟で迅速な対応を心掛けています。

◆税務システム保守チーム◆

個人市県民税・軽自動車税など税金を管理する自治体財源の核となるシステム保守を担当しています。お客さまとの信頼関係構築のために、お客さまへの「報告・連絡・相談」を確実に実行し、「安心・安全」をお届けできるよう日々積み重ねています。



◆収納システム保守チーム◆



住民の方が収められた税金などを収納データとして管理する「収納システム」の保守チームです。個性豊かなメンバーが役割を分担し、チームワークと連携を大切に、時にははづつかりながらメンバー一丸となりシステム品質の維持と向上に努めています。

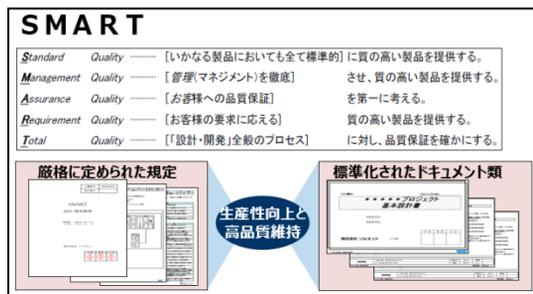
ソルネットの開発を支える取組み



昨今、システムは高度化、複雑化が進んでいる一方で、開発の高速化や変化に対する柔軟性が求められています。このような要求に対応するためには、品質維持や生産性、利便性向上のための継続的な取組みが必要となります。今回は、お客さまにご満足いただける製品を提供するための取組みについて、プロセス面、組織面、技術面の視点でご紹介します。

■プロセス面の取組み

弊社では、開発プロセスを定義した設計・開発標準「SMART」に基づいて開発を進めています。このプロセス管理は非常に厳格で各プロセスで行われるQA（品質保証）会議で承認を得なければ次に進むことができません。プロセスを明確に定義することで属人化を防ぐだけでなく、プロジェクト（以下PJ）



の状況を第三者が客観的に評価でき、品質や進捗の管理に欠かせない仕組みとなっています。2002年から運用開始したSMARTは、陳腐化しないように、アジャイル開発などの時代に合わせた見直しやISO監査などの運用チェック結果に基づいた改善を継続的にこなっています。

■組織面の取組み

組織的な取組みの一つは「プロジェクト支援ミーティング」です。会議にはPJ関係者だけでなく経営陣や他部門の有識者も参加し様々な角度からのアドバイスが行われます。これにより、課題の早期発見やトラブルの未然防止だけでなく、仮にトラブルが発生した場合でも、PJの状況を会社全体で常に共有しているため、迅速かつ的確な対応が可能となります。また全社員に向けては「パワーアップフォーラム」という社内発表会を年に2回実施します。発表会では、新技術やPJの成功例・失敗例などを共有することで、PJ資産・ノウハウとして蓄積でき、各人のスキルアップにもつながっています。上述したSMARTの管理を含め、これらの取組みは、**品質マネジメント**という専門組織によって、企画・運営されており、これも弊社の大きな特徴と言えます。

■技術面の取組み

技術面のポイントとしては、「開発基盤整備」「再利用」「新技術」への取組みです。

「開発基盤整備」では、20年程前からノウハウを蓄積している開発フレームワークの整備・活用があげられます。「再利用」では、製造や調達をはじめとした特定業務に特化したシステムを半製品化したテンプレートの整備を進めています。テンプレート化することでコスト削減や安定した品質を保ちながら、パッケージにはない柔軟性をご提供できます。「新技術」としては、この紙面でOSS等の取組みをご紹介してきました。次号で「開発基盤整備」と「再利用」について詳しくご紹介したいと思います。



(技術支援グループ 園田 慎二)



未来をつくるパートナーとして

「ソルネットさんは、もっともっと変わらないとだめですよ！」
私の目を見て、お客さまがきっぱりと仰いました。

製造業のシステム開発からスタートした弊社は、お客さまの課題を解決し、ご要望にお応えするソリューション構築をもっとも得意としてきました。またその歴史の中から、愚直に真面目に仕事に取り組む社員の姿勢も培われてきました。



しかしこのお客さまは、このような弊社の歩みや真面目な社風だけでなく、新規サービス創出のための近年のチャレンジなども十分ご理解・ご評価くださった上で、今の弊社にはまだまだ「新しさ」「面白さ」「スピード」が足りないと熱く語ってくださっているのです。

突然の展開に初めは戸惑いましたが、ご指摘をお聞きしているうちに、ふと気づきました。

このお客さまは弊社に対して、「昔話のできる旧知の友人」ではなく、「ともに未来をつくるパートナー」であってほしいと思ってくださっているのです。弊社を見つめ続け、弊社に期待してくださっていることがわかったとき、「このお客さまにほめていただけるように変わりたい」と心の底から思いました。

ITのプロフェッショナルとしてのプライドと、お客さまのビジネスを預かる責任感を持ち続けているか。変化やリスクを恐れず、お客さまとチャレンジできているか。お客さまの思い描く未来を知って共有し、その実現のために全力を尽くしているか。

50周年だからこそ、気持ちの緩みや、甘えがないかを再点検する、それこそが、お客さまの期待に応え、未来をともにつくるパートナーとして選び続けていただくための、唯一無二の方法だということを胸に刻み、新たなこの一年を大切に歩んで生きたいと思えます。

(Y.Nishino)

編集後記

先日家の近くの池に、特別天然記念物の“コウノトリ”が2羽飛来しました。この2羽は「兵庫県立コウノトリの郷公園」が放鳥したものだそうです。生息環境悪化のために絶滅した“幸運の使者”が、以前はとても汚かった池に訪れたことは、行政と市民による環境活動のおかげだと思えます。戻りつつある豊かな自然を、この先もしっかりと守っていかなければと思いました。

(K.K.)

